

主な事業に関する調べ

(単位：千円)

事業名	決算額	財源内訳																																			
		国庫支出金	起債	その他	一般財源																																
生きる力を育むとっとり学校図書館活用教育普及事業	762				762																																
将来ビジョン	—																																				
令和新時代創生戦略	—																																				
政策項目	—																																				
<p>(概要)</p> <p>ア 目的及び事業の実施状況</p> <p>(ア) 目的</p> <p>平成27年度に策定した「学校図書館活用教育推進ビジョン」及び「学校図書館活用ハンドブック」をもとに、就学前から小、中、高等学校まで一貫した見通しを持った学校図書館活用教育の一層の普及を図る。</p> <p>新学習指導要領を踏まえた主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、学校図書館を活用した授業の年間計画作成や具体的な実践、学校図書館関係職員の能力向上に資する研修、その他広く教職員と学校図書館活用の意義を共有できる研修を実施し、学校現場での図書館活用教育の推進を支援する。</p> <p>(イ) 事業の実施状況</p> <p>○学校図書館活用教育普及講座の実施</p> <table border="1"> <tr> <td>期日等</td> <td>・令和3年8月18日(水) 中部地区対象 オンライン ・令和3年8月19日(木) 西部地区対象 オンライン ・令和3年8月20日(金) 東部地区対象 オンライン</td> </tr> <tr> <td>参加者</td> <td>合計108名 (対象：小中学校・特別支援学校教職員・市町村教育委員会指導主事)</td> </tr> <tr> <td>内容</td> <td>「これからの学校図書館活用に求められること ～GIGAスクール構想の展開を支える学校図書館のDX化～」 午前：講義「これからの学校図書館活用教育に求められること」 午後：演習「電子書籍体験、デジタルパスファインダー作成」 講師：帝京大学教育学部初等教育学科 教授 鎌田和宏氏 ・3日間とも講師が東京から遠隔で講義と演習を行うオンライン開催</td> </tr> </table> <p>○学校図書館司書研修会(年1回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>内容・講師</th> <th>期日</th> <th>参加者</th> <th>会場</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>「学校図書館とICTの活用」 講師：白百合女子大学准教授 今井福司氏 「とっとりデジタルコレクションの活用」 講師：鳥取県立博物館 茶谷満主任学芸員兼専門員</td> <td>11月16日(火)</td> <td>25名</td> <td>リモート</td> </tr> </tbody> </table> <p>○学校図書館司書実務研修会(年2回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>内容・講師</th> <th>期日</th> <th>参加者</th> <th>会場</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>「学校図書館の活用と司書の役割」 講師：東部・中部の司書主任</td> <td>10月21日(木)</td> <td>28名</td> <td>リモート</td> </tr> <tr> <td>「Google for Educationの基本操作と活用」 講師：Google社 福家夏希氏 「学校図書館の運営と校内の連携」講師：西部の司書主任</td> <td>1月20日(木)</td> <td>23名</td> <td>リモート</td> </tr> </tbody> </table> <p>○学校図書館支援員の研修会派遣</p> <p>・学校図書館関係職員対象 派遣回数5回 研修参加人数92名</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>研修会</th> <th>実施市町村</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市町村教育委員会及び市町村立図書館主催研修会</td> <td>鳥取市、岩美郡、八頭郡(東部小教研)、境港市、琴浦町、西伯郡</td> <td>・学校図書館を活用した授業づくり ・情報カードを活用した授業づくり ・GIGAスクール構想と学校図書館 ・これからの学校図書館</td> </tr> </tbody> </table>						期日等	・令和3年8月18日(水) 中部地区対象 オンライン ・令和3年8月19日(木) 西部地区対象 オンライン ・令和3年8月20日(金) 東部地区対象 オンライン	参加者	合計108名 (対象：小中学校・特別支援学校教職員・市町村教育委員会指導主事)	内容	「これからの学校図書館活用に求められること ～GIGAスクール構想の展開を支える学校図書館のDX化～」 午前：講義「これからの学校図書館活用教育に求められること」 午後：演習「電子書籍体験、デジタルパスファインダー作成」 講師：帝京大学教育学部初等教育学科 教授 鎌田和宏氏 ・3日間とも講師が東京から遠隔で講義と演習を行うオンライン開催	内容・講師	期日	参加者	会場	「学校図書館とICTの活用」 講師：白百合女子大学准教授 今井福司氏 「とっとりデジタルコレクションの活用」 講師：鳥取県立博物館 茶谷満主任学芸員兼専門員	11月16日(火)	25名	リモート	内容・講師	期日	参加者	会場	「学校図書館の活用と司書の役割」 講師：東部・中部の司書主任	10月21日(木)	28名	リモート	「Google for Educationの基本操作と活用」 講師：Google社 福家夏希氏 「学校図書館の運営と校内の連携」講師：西部の司書主任	1月20日(木)	23名	リモート	研修会	実施市町村	内容	市町村教育委員会及び市町村立図書館主催研修会	鳥取市、岩美郡、八頭郡(東部小教研)、境港市、琴浦町、西伯郡	・学校図書館を活用した授業づくり ・情報カードを活用した授業づくり ・GIGAスクール構想と学校図書館 ・これからの学校図書館
期日等	・令和3年8月18日(水) 中部地区対象 オンライン ・令和3年8月19日(木) 西部地区対象 オンライン ・令和3年8月20日(金) 東部地区対象 オンライン																																				
参加者	合計108名 (対象：小中学校・特別支援学校教職員・市町村教育委員会指導主事)																																				
内容	「これからの学校図書館活用に求められること ～GIGAスクール構想の展開を支える学校図書館のDX化～」 午前：講義「これからの学校図書館活用教育に求められること」 午後：演習「電子書籍体験、デジタルパスファインダー作成」 講師：帝京大学教育学部初等教育学科 教授 鎌田和宏氏 ・3日間とも講師が東京から遠隔で講義と演習を行うオンライン開催																																				
内容・講師	期日	参加者	会場																																		
「学校図書館とICTの活用」 講師：白百合女子大学准教授 今井福司氏 「とっとりデジタルコレクションの活用」 講師：鳥取県立博物館 茶谷満主任学芸員兼専門員	11月16日(火)	25名	リモート																																		
内容・講師	期日	参加者	会場																																		
「学校図書館の活用と司書の役割」 講師：東部・中部の司書主任	10月21日(木)	28名	リモート																																		
「Google for Educationの基本操作と活用」 講師：Google社 福家夏希氏 「学校図書館の運営と校内の連携」講師：西部の司書主任	1月20日(木)	23名	リモート																																		
研修会	実施市町村	内容																																			
市町村教育委員会及び市町村立図書館主催研修会	鳥取市、岩美郡、八頭郡(東部小教研)、境港市、琴浦町、西伯郡	・学校図書館を活用した授業づくり ・情報カードを活用した授業づくり ・GIGAスクール構想と学校図書館 ・これからの学校図書館																																			

・学校図書館と司書教諭、学校司書の役割など

○県教育センターとの連携

・学校図書館支援員が講師を務めた。

合計3回 研修参加人数175人

研修会	対象	内容
新任司書教諭研修	小・中・高・特別支援学校の 新任司書教諭と希望者	「学校図書館と司書教諭の役割」
司書教諭研修(小・特)	小・特別支援学校の全司書教諭	「学校図書館の活用と司書教諭の果たす役割」
司書教諭研修(中・高)	中・高等学校の全司書教諭	「学校図書館の活用と司書教諭の果たす役割」

○高校生の読書推進事業

・「高校生にすすめたい本パンフレット」作成と配布

高校、特別支援学校の学校図書館より紹介された高校生へのおすすめ本37冊を掲載したパンフレットを作成し、県内の高校・特別支援学校高等部生徒へ配布。

○「全国高等学校ビブリオバトル2021鳥取県大会」

日 時	令和3年12月12日(日)13時~15時30分
場 所	倉吉体育文化会館 大研修室・中研修室・小研修室
出場校・出場人数	13校・13名
参加人数	73名(出場者・観覧者・スタッフ等)
チャンプ本	『また、同じ夢を見ていた』(住野よる/著 双葉社)八頭高等学校

○授業活用選定用見本図書の貸出

・学校や各市町村立図書館に紹介。1市町村当たり合計3セットを貸出した。

・全点購入の新刊児童図書(選定用)の利用が多かった。(3889冊)

イ 令和3年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

・新型コロナウイルス感染拡大防止のため集合研修の開催が困難だったが、リモート開催や会場設置の工夫により研修の機会を確保するように努めた。

ウ 成果及び効果

- ・学校図書館関係者への「鳥取県学校図書館活用教育推進ビジョン」の普及が進み、学校図書館が「情報センター」としての機能を発揮して、年間授業計画の見直しが進んだり、学校図書館が軸となって情報活用能力の育成を進めるような先進事例が見られるようになったりしている。
- ・公共図書館職員向けの研修で学校図書館支援についてのテーマを扱う機会が増え、公共図書館と学校図書館の連携につながっている。

エ 課題

- ・GIGAスクール構想の実現に向けて各市町村でICT環境が整備される中で、図書館活用教育に求められる内容も変化している。これからの学校図書館に必要な要素を見極め、資料提供や研修の開催など、学校図書館や公共図書館支援を充実させていくことが必要である。
- ・新学習指導要領に基づく授業が実施される中、より学校でのニーズに即した情報提供や研修内容が求められる。
- ・高校での総合的な探究の時間等、各学校における探究的な学習での学校図書館の活用には差があるため、学校図書館関係者にとどまらず、全教職員の意識を高めるため、研修や情報提供を行っていく必要がある。
- ・情報活用能力の育成に不可欠な、計画的な学校図書館活用が県内で伸び悩んでいる実態があるため、学校図書館利活用に向けて、ICT活用とも関連した研修会を開催したり、情報提供をしたりしながら推進していく必要がある。

(単位：千円)

事業名	決算額	財源内訳			
		国庫支出金	起債	その他	一般財源
デジタル化時代の知の拠点づくり事業	24,857				24,857
将来ビジョン	—				
令和新時代創生戦略	—				
政策項目	—				
<p>(概要)</p> <p>ア 目的及び事業の実施状況</p> <p>(ア) 目的</p> <p>地域の歴史や文化に関する資料を次世代に伝え残していくため、図書館の貴重な資料のデジタル化を推進するとともに、容易に利用できる望ましいデジタルアーカイブシステムの構築について検討し公開する。</p> <p>(イ) 事業の実施状況</p> <p>○デジタルアーカイブシステム「とっとりデジタルコレクション」(以下「とりデジ」)の運用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館、博物館、公文書館、埋蔵文化財センターと共同のシステムを令和3年3月1日に一般公開した。令和2年度デジタル化資料の登録を行い、目次、解説等を入力中。 データ数約38万件、アクセス数約19万件(令和4年1月末現在) <p>○「とりデジ」の広報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とっとりデジタルコレクション活用講座「キーワードを使って地域の資料を探してみよう」 日時：令和3年9月12日(日)(とっとり県民の日)～YouTubeで配信 講師：県立公文書館 伊藤専門員 内容：とりデジで鳥取県の歴史や自然について調べる方法 (県民向け) 視聴回数：340回(令和4年2月17日現在) ・図書館業務専門講座でとりデジ活用法の講義・演習 日時：令和3年9月17日(金) 開催方法：オンライン視聴 講師：県立図書館 野沢資料課長、藤原司書 内容：とりデジの概要及び調べ方のコツ(公共図書館職員向け) 参加人数：43名 ・学校図書館司書研修会でとりデジ活用講座 日時：令和3年11月16日(火) 開催方法：オンライン視聴 講師：県立博物館 茶谷学芸員 内容：とりデジとジャパンサーチを使って検索する方法 (学校図書館職員向け) 参加人数：25名 <p>○「ジャパンサーチ」及び「国立国会図書館サーチ」との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年9月にジャパンサーチ、12月に国立国会図書館サーチと連携し、それぞれのシステムから、とりデジ所蔵資料の検索が可能となった。 <p>○とりデジの子ども向けマニュアル作成</p> <p>内容：令和3年7月、とりデジの使い方をわかりやすく説明した、子ども向けのマニュアルを作成し、館内配布及びホームページ掲載</p>					

○資料デジタル化の推進

- ・ 郷土資料のデジタル化（令和3年度分、5年計画の4年目）
『鳥取県郷土調査』（134冊）、美術資料（書軸）9点
令和4年1月末デジタル化総数：2,432件（うち公開数：2,198件）

○スキルアップのための研修講座の受講

デジタル化を担う人材を育成するための研修会に参加。準デジタルアーキビスト：2名取得

○地方出版のデジタル化

- ・ 地方出版のデジタル化に関わる勉強会
日時：令和3年12月3日（金） 会場：本の学校及びオンライン視聴
講師：札幌市中央図書館 浅野隆夫氏
内容：札幌市における地方出版のデジタル化の取組みについての事例発表と鳥取県内の図書館職員・出版社・印刷会社との意見交換。
参加人数：25名
- ・ 一般社団法人北海道デジタル出版推進協議会（以下「HOPPA」）と鳥取県の出版・印刷・図書館関係者の意見交換会
日時：令和4年1月17日（オンライン開催）
内容：HOPPAで行っている地方出版のデジタル化の取組みについての事例紹介と鳥取県内の出版社・印刷会社・図書館システム開発業者・県立図書館との意見交換。
参加人数：13名

イ 令和3年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

- ・ とりデジの活用促進のため、対象別の講座を開催した。また、夏休み前には「子ども向けマニュアル」を作成し、自由研究等での活用促進を行った。
- ・ とりデジをジャパンサーチ、国立国会図書館サーチと連携した。
- ・ 公開資料に目次・内容、解説等を追記した。
- ・ 地方出版物のデジタル化については、県内の出版社等と県外の先進地をオンラインでつないだ勉強会を開催した。
- ・ 電子書籍については、事業者との協議を行い、導入に係る課題整理等を始めた。

ウ 成果及び効果

- ・ 昨年度末にとりデジの公開を行い、アクセス件数が約19万件となった。
- ・ とりデジの活用促進のための講座を行ったことにより、普及につながった。
- ・ ジャパンサーチ、国立国会図書館サーチとの連携により、より多くの利用者にアクセスしてもらえる機会が増えるとともに、全国の他機関の類似資料を同時に検索することが可能となった。
- ・ 当初の予定どおり、郷土資料のデジタル化を進めることができた。

エ 課題

- ・ 公開資料を増やすこと。
- ・ 職員の経験を蓄積し、知識と技術を身に付けること。
- ・ デジタルアーカイブシステムを周知し、活用を進めること。
- ・ 市町村立図書館や大学図書館等、関連機関との連携を進めること。
- ・ 地方出版のデジタル化について、出版社等と連携し、鳥取県としての取組みを進めること。
- ・ 電子書籍について、導入に係る課題整理等の検討を進めること。

(単位：千円)

事業名	決算額	財源内訳			
		国庫支出金	起債	その他	一般財源
仕事と暮らしに役立つ図書館推進事業 (暮らしに役立つ図書館推進事業)	9,594	1,857			7,737
将来ビジョン	—				
令和新時代創生戦略	—				
政策項目	—				

(概要)

ア 目的及び事業の実施状況

(ア) 目的

図書館が所蔵する多様な資料や専門職としての司書の能力を最大限に生かし、地域の情報拠点として、県民の情報要求に応え、県民の生活課題に即した情報提供を実現する。

(イ) 事業の実施状況

<医療・健康情報の提供>

○闘病記をはじめとした「当事者の語り」の普及啓発事業

・「闘病記文庫開設15周年記念シンポジウム2021

「新型コロナウイルスとの闘い～アフターコロナにおける図書館の可能性を考える～」の開催(共催：鳥取大学)

内容：

(1) 基調講演

演題：「新型コロナウイルス変異株の流行とワクチン接種」

講師：鳥取大学医学部 副学部長 景山誠二氏

(2) 報告

「県立図書館および県内図書館の医療・健康情報の15年間の歩み」

報告者：中尾有希子(鳥取県立図書館郷土資料課長)

(3) シンポジウム

テーマ：「新型コロナウイルスとの闘い

～アフターコロナにおける図書館の可能性を考える～」

コーディネーター 田村俊作氏(慶應義塾大学名誉教授 図書館・情報学)

パネリスト 友森一美氏(Breast Cancer Network Japan あけぼの会
あけぼの鳥取 代表)

景山誠二氏(鳥取大学医学部 副学部長)

内田眞澄氏(前鳥取県看護協会会長)

松田啓代(鳥取県立図書館情報相談課長)

実施日	令和3年7月10日(土)
会場	鳥取県立図書館 他
参加者	計109名 (各会場参加) 鳥取県立図書館40名、米子市立図書館9名、琴浦図書館3名、 加藤文太郎記念図書館1名、あわくら図書館1名 (オンライン参加) zoom55名

- ・特別展示「ハンセン病問題啓発パネル展」(令和3年6月1日～7月30日)(協力：健康政策課)
- ・企画展示「闘病記文庫開設15周年「アフターコロナにおける図書館の可能性を考える」」(令和3年7月1日～7月30日)

・シトラスリボン作成・配布(協力：人権・同和対策課)

・県内図書館・図書室の医療・健康情報サービス、闘病記・患者会資料についての現状把握に向けたアンケート調査の結果(令和3年6月実施)

○新型コロナウイルスに関する情報発信

- ・企画展示「新型コロナウイルスについて知る 感染症・対策編 人権・働き方編」
(令和2年9月1日～9月30日)
- ・企画展示「新型コロナに負けない! 「認知症・フレイル予防」」
(令和3年5月14日～6月30日) (協力:長寿社会課)
- ・ミニ展示「冬に起こりやすい病気を予防しよう」(令和3年11月1日～令和4年1月30日)
- ・企画展示:オミクロン株に注意! 感染対策を徹底しよう(令和4年1月14日～)
- ・新型コロナウイルス以降の新しい「暮らし方」・「働き方」を支える情報棚(通年)
- ・感染症調べ方案内作成・配布(令和3年6月作成)
- ・新型コロナウイルス関連資料の収集(通年)
- ・新型コロナウイルス関連リンク集更新(令和3年9月1日更新)

○その他

- ・医療・健康情報調べ方案内作成・改訂(令和4年1月)
- ・がん情報ギフト※による情報提供(継続)
※国立がん研究センターが全国の図書館にがんに関する資料を寄贈。県立図書館では医療・健康情報コーナーに設置するとともに、「がん情報ギフト」貸出セット(見本)を県内の図書館に貸出している。
- ・県立厚生病院のほっとこーな一管理(令和3年5月、8月実施)
※11月以降は新型コロナウイルスのため中止(県立中央病院は今年度中止)

<法律情報・困りごと解決支援情報の提供>

- 「法テラスの日」記念無料法律相談会を開催(新型コロナ感染状況を考慮し、中止)
主催:日本司法支援センター鳥取地方事務所(共催:県立図書館)
- 「小学生裁判傍聴会 法廷に行ってみよう!」(新型コロナ感染状況を考慮し、中止)
主催:鳥取県弁護士会(共催:県立図書館)
- 関連機関と共同で相談会を開催(会場:県立図書館)

相談会名	開催時期、参加者数
鳥取県司法書士会無料相談会	新型コロナ感染状況を考慮し中止
鳥取県行政書士会外国人何でも無料相談会	予約制に変更して開催。4～7、11、1月に5回開催7名参加

<子育て応援情報の提供>

- 「読みメンになろう!」プロジェクト事業
・読みメン月間の企画展示

期間等	令和3年6月1日(火)～6月29日(火) 場所:児童図書室
内容	読みメンにおすすめの絵本、リーフレット等の展示
貸出冊数	129冊

- ・読みメンのおはなし会(男性職員による絵本の読み聞かせ)の開催

開催日	令和3年6月20日(日)、12月19日(日) ※定員制、事前申込制。2回目は「外国語で楽しむえほんのじかん」も兼ねて開催
参加者	26名:子ども9名、大人17名

※託児サービス「託児で来ぶらり」は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。

<高齢者サービス情報の提供>

- 「セカンドライフを楽しむための情報活用講座」の開催(会場:県立図書館)
・今年度2回開催予定であったが、新型コロナ感染状況を考慮し、開催を中止した。
※いつでも再開できるよう、テキスト「タブレットにさわる」「インターネットを使う」「県立図書館の本を探す」「本の予約・利用状況」「医療・健康情報」を作成。
- 「いきいきライフ応援コーナー」の運営
・超高齢化が進む中、中高年齢者に関心の高い分野の図書を提供するとともに関連する図書の展示を行った。

令和3年度貸出冊数	8,636冊
-----------	--------

- 「あたまイキイキ音読教室」の開催（会場：県立図書館）
 ・参加者主体の運営に移行予定であったが、新型コロナ感染状況を考慮し、12月のみ開催した。

実施日・参加者数	毎月第4木曜日（1日1回開催、） 実施日12月23日（木）・参加者16名
----------	---

- 「あたまイキイキテレビ音読教室」の実施
 ・ケーブルテレビによる音読教室の放映を行った。

放映状況	前期（5話）
	東部地区 12月6日～10日、12月13日～19日
	中部地区 12月4日～12月11日
	西部地区 12月18日～21日、12月24日、25日
	後期（5話） 2月下旬から3月上旬にかけて各地区放送予定

<障がい者サービス情報の提供（障がい者に配慮した「はーとふるサービス」推進事業）>

- 読書バリアフリーフォーラムの開催

1 大会テーマ

「すべての県民に読書のよこびを ～読書バリアフリーの現状と課題～」

2 主催 鳥取県立図書館 鳥取県福祉保健部ささえあい福祉局障がい福祉課

3 内容：

(1) 基調講演

演題：「だれでも読みたい本が自由に読めるような読書環境を目指して」

講師：筑波大学附属視覚特別支援学校教諭 宇野和博氏（リモート）

(2) 報告

「鳥取県の計画概要及び読書バリアフリーの取組」

報告者：福市 信（鳥取県立図書館情報相談課相談担当係長）

(3) パネルディスカッション

コーディネーター 宇野和博氏（前述）

パネリスト 大道進一氏（鳥取県視覚障害者福祉協会）

齊藤里依氏（困り感を抱える子を支援する親の会「らっきょうの花」代表）

廣谷静枝氏（音訳ボランティアグループ「ありんこ」代表）

遠藤崇仁氏（鳥取県ライトハウス点字図書館情報支援員）

福市 信（鳥取県立図書館情報相談課相談担当係長）

実施日	令和3年10月31日（日）
会場	とりぎん文化会館 第1会議室
参加者	計97名 会場参加 60名 オンライン参加 37名

(4) 機器展示

バリアフリー図書コーナー 拡大読書器コーナー マルチメディアデイジー図書コーナー
 凸面点字器コーナー

- 鳥取県読書バリアフリー推進に係る関係者協議会の開催

「鳥取県視覚障がい者等の読書環境の整備の推進に関する計画」に基づく鳥取県の読書バリアフリー推進事業等の取組状況等について、事業等の評価や進行に関する有識者等の意見を聴取することを目的として、以下のとおり開催した。

実施日	令和4年1月25日（火）
会場	事務局を鳥取県立図書館大研修室に設置。 委員13名中11名はリモート参加、2名は小研修室にて参加。

- はーとふるサービスコーナーのリニューアル

図書館利用に障がいのある人に対するサービス啓発のため設置している「はーとふるサービスコーナー」を、デイジー図書が配架できるようリニューアルし、利用促進を図る。

○機器整備

- ・電子ルーペ1台と凸面点字器を10セット購入。
- ・中央カウンターにコミュニケーションボードを設置。

○録音図書の貸出

貸出作品数	646点
-------	------

○「手話で楽しむおはなし会」の開催

実施日・参加者	毎月第4日曜日	・延べ	57名	：子ども11名、大人46名
---------	---------	-----	-----	---------------

※定員制、事前申込制で実施。新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した期間あり。

○「バリアフリー映画上映会」の開催

実施日	映画名	参加者
新型コロナ感染状況を考慮し中止	—	—

イ 令和3年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

- ・県民の健康への願いを込めて開設した「闘病記文庫」が15周年を迎えたことを記念し、新型コロナウイルスの最新情報をお届けすると共に、アフターコロナを視野に図書館に何ができるのかを探るシンポジウムを開催した。会場参加とオンライン参加のハイブリッド開催とすることで、コロナ禍ではあったが、感染対策を徹底した中で多くの方に参加いただくことができた。
- ・新型コロナウイルスの影響で、県立図書館で開催予定の高齢者を対象とした事業がほぼ中止となったが、昨年执行的にケーブルテレビによるテレビ音読教室については、全県を対象として放映した。また、情報活用講座については、いつでも再開できるようテキストを整備した。
- ・昨年度策定した「鳥取県視覚障がい者等の読書環境の整備の推進に関する計画」や県内の読書バリアフリーの取組を周知・啓発するため読書バリアフリーフォーラムを実施した。また、県内の読書バリアフリーの取組を効果的に推進するために関係者の意見交換の場である関係者協議会を設置した。

ウ 成果及び効果

- ・「闘病記文庫開設15周年記念シンポジウム2021」では、新型コロナウイルスの基礎知識から感染対策やワクチンについての研究を基にした確かな最新情報までご紹介いただいた基調講演をはじめ、当館の医療・健康情報の15年間の歩みと共に、県内図書館を対象に実施したアンケート結果や医療・健康情報、闘病記各コーナーの県内図書館における開設状況等について報告、異なる分野で活躍されているパネリストの方々によるコロナ禍におけるそれぞれの活動、アフターコロナにおける図書館の可能性や図書館に期待することについてお話いただき、新型コロナウイルスへの理解を深めると共に、図書館の医療・健康情報サービスについて知っていただく良い機会となった。
- ・障がいの有無にかかわらず全ての人が等しく読書を通じて文字・活字文化の恩恵を受けることができる社会を目指すという読書バリアフリー法の趣旨に基づき「鳥取県視覚障がい者等の読書環境の整備の推進に関する計画」を策定した。
- ・読書バリアフリーフォーラムを開催し、障がい当事者、関係団体、行政など多くの方に参加していただくことにより、鳥取県の読書バリアフリー推進のきっかけとすることができた。

エ 課題

- ・これから出版されはじめる新型コロナウイルスに関する闘病記を収集するなど、今後も県民が求める医療・健康情報に係る資料を今後も速やかに収集・提供するとともに、関係機関との連携を密に取りながら一層の県民サービスの充実に努め、人権に配慮し、病気になっても安心して暮らせる地域づくりに貢献していく必要がある。
- ・「鳥取県視覚障がい者等の読書環境の整備の推進に関する計画」を一般県民や関係者等に周知するとともに、この計画に基づき、読書バリアフリー推進のための具体的な取り組みを関係機関等と連携して実施していく必要がある。
- ・県内の障がい者サービスの実態を把握することに努め、今後の市町村立図書館の障がい者サービスの充実に努める必要がある。

(単位：千円)

事業名	決算額	財源内訳			
		国庫支出金	起債	その他	一般財源
仕事とくらしに役立つ図書館推進事業 (図書館ビジネス支援推進事業)					
将来ビジョン	—				
令和新時代創生戦略	—				
政策項目	—				

(概要)

ア 目的及び事業の実施状況

(ア) 目的

県全域での図書館のビジネス支援体制を推進するため、各地域の図書館と協力し、全域でのビジネス支援サービスの定着、利用者の掘り起こしに取り組む。産業振興や雇用を創出することは、地域活性化を考えるうえで極めて重要な課題であり、商工団体、産業支援機関との連携を強化し、図書館の機能を生かしたビジネス支援を積極的に行っていく。

(イ) 事業の実施状況

○「Withコロナ時代の仕事に役立つビジネスセミナー」の実施 ※オンライン中継

期日等	令和3年11月13日(土)
参加者	43名
主催	鳥取県立図書館
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・セミナー「鳥取県の中小企業・起業家のためのビジネス情報探索手法」 講師：菊池 健司 (株式会社日本能率協会総合研究所 MDB エグゼクティブフェロー) ・特別講演「ピンチをチャンスに変える中小企業の作り方～afterコロナの時代に向けて～」 特別講師：中村 朱美 (株式会社minitts代表) ・図書館からの情報提供 (鳥取県立図書館 安藤理恵)

○「夢・実現スタートアップ創業勉強会」の開催

期日等	令和3年9月5日(日) 会場：鳥取県立図書館 大研修室
参加者	計9名(オンライン1名)
主催・共催	主催：鳥取県立図書館
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「図書館で創業や経営に役立つリサーチ・マーケティング力をつけよう」 講師 樋野 泰広氏 (鳥取県よろず支援拠点 チーフコーディネーター) ・図書館から情報提供(鳥取県立図書館 安藤理恵) ・相談会(3組4名)

期日等	令和3年9月18日(土) 会場：倉吉交流プラザ 第一研修室
参加者	計4名
主催・共催	主催：鳥取県立図書館 共催：倉吉市教育委員会
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「図書館で創業や経営に役立つリサーチ・マーケティング力をつけよう」 講師 樋野 泰広氏 (鳥取県よろず支援拠点 チーフコーディネーター) ・図書館から情報提供(鳥取県立図書館 岩崎武史・倉吉市立図書館 前田晶子) ・相談会(2組2名)

期日等	令和3年9月19日(日) 会場:米子市立図書館 多目的研修室
参加者	計6名
主催・共催	主催:鳥取県立図書館 共催:米子市立図書館
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「図書館で創業や経営に役立つリサーチ・マーケティング力をつけよう」 講師 樋野 泰広 氏(鳥取県よろず支援拠点 チーフコーディネーター) <ul style="list-style-type: none"> ・図書館から情報提供(鳥取県立図書館 藤井美華子・米子市立図書館 佐々木智子) ・相談会(3組3名)

※来年度実施予定の「夢を実現しました大賞」につながるよう、創業者向けの初歩的な講座において初開催。

○「農業者のための図書館活用ミニ講座」の開催

期日等	令和3年9月11日(土) 会場:境港市保健相談センター
参加者	計46名(26名/20名)
主催	鳥取県立図書館、境港市民図書館
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「野菜づくりのコツと裏技(秋冬野菜編)」※オンライン中継 ・「ガーデニングできれいな花を咲かせよう」※オンライン中継 講師 向井 道彦 氏(農山漁村文化協会 中国四国支部 支部長) <ul style="list-style-type: none"> ・INPIT鳥取県知財総合支援窓口のご紹介 ・境港市民図書館より(嘉賀館長)

期日等	令和3年11月17日(水) 会場:ゆうゆう健康館気高
参加者	計36名
主催	鳥取県立図書館、鳥取市立気高図書館
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「野菜づくりのコツと裏技(春夏野菜編)」 講師 向井 道彦 氏(農山漁村文化協会 中国四国支部 支部長) <ul style="list-style-type: none"> ・INPIT鳥取県知財総合支援窓口のご紹介 ・鳥取市立気高図書館より(石井館長)

期日等	令和3年11月18日(水) 会場:船岡地区公民館
参加者	計38名(9名/27名)
主催	鳥取県立図書館、
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「獣害対策基本のキ」 ・「野菜づくりのコツと裏技(春夏野菜編)」 講師 向井 道彦 氏(農山漁村文化協会 中国四国支部 支部長) <ul style="list-style-type: none"> ・INPIT鳥取県知財総合支援窓口のご紹介 ・日本セ策金融公庫鳥取支店農林水産事業のご紹介 ・八頭町立図書館より(奥平館長)

※ルーラル電子図書館((一社)農山漁村文化協会が運営する農業と食生活に関する情報をまとめた有料のデータベース)を使用した講座。

※鳥取県立図書館が県内全市町村立図書館で利用可能な契約を結んだため、利用促進の機会として上記講座を開催している。

※江府町立図書館でも令和4年2月26日に実施計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。

○鳥取県立図書館と産業支援機関との連携事業

期日等	令和3年8月6日(金) Zoom開催
参加者	15名
主催	日本政策金融公庫、鳥取県立図書館

内 容	「高校生ビジネスプラン作成講座」 講師：日本政策金融公庫職員、鳥取県立図書館職員
-----	---

○ビジネス情報相談会の開催（会場：県立図書館）（4月～1月）

・県立図書館司書と「鳥取県よろず支援拠点」※の相談員による相談会。相談者が求めるビジネス情報の検索は司書が行い、経営相談は鳥取県よろず支援拠点の相談員が行う。倉吉・米子の各会場も図書館職員が同席し、相談に応じた。

会場	開催日	相談数
鳥取会場	毎月第3火曜日	8件
倉吉会場	毎月第1水曜日	5件
米子会場	毎月第3金曜日	18件

※よろず支援拠点…国が全国に設置する経営相談所で中小企業・小規模事業者の売上拡大や経営改善など経営上の相談に対応している。

○関係機関と連携し定期相談会を開催（会場：県立図書館）（4月～1月）

相談会名	共催等関係機関	開催日	参加者数（延数）
創業・融資相談会	日本政策金融公庫	毎月第2日曜日	17名
起業・経営 なんでも相談会	鳥取県中小企業診断士協会	毎月第2日曜日	
特許相談会	鳥取県知的所有権センター	毎月第2火曜日	16名
就農相談会	公益財団法人農業農村担い手育成機構	年3回	10名

○商工労働関連研修会、イベントへの出前図書館の実施（4回）

研修会、イベント名	会場
仕事に役立つ図書館活用講座（オンライン）	境港商工会議所
とっとり創業塾	鳥取商工会議所
創業ゼミ	米子商工会議所
鳥取県文化財団SDGs研修会	とりぎん文化会館

○企画展示 鳥取県内企業製品等の図書館巡回展示の開催

内 容	「鳥取県内企業製品等の図書館巡回展示」	
展 示 物	鳥取県企業製品の実物の展示、紹介パネルの展示など（4セット）	
主 催	鳥取県産業未来創造課	
期 間	令和3年9月29日（水）～令和4年2月22日（火）	
展 示 館	展示期間	
県立青谷高校図書館	令和3年9月30日（木）～10月12日（火）	
県立鳥取湖陵高校図書館	令和3年10月8日（金）～令和4年2月2日（水）	
県立倉吉総合産業高校図書館	令和3年10月20日（水）～年11月1日（月）	
私立倉吉北高校図書館	令和3年10月25日（月）～11月2日（火）	
県立米子東高校図書館	令和3年11月29日（月）～12月8日（水）	
県立米子南高校図書館	令和3年9月30日（木）～11月25日（木）	
県立倉吉西高校図書館	令和3年10月6日（水）～令和4年2月2日（水）	
県立境高校図書館	令和3年11月10日（水）～令和4年2月22日（火）	
県立智頭農林高校図書館	令和4年1月11日（火）～2月3日（木）	

※県内企業が開発した新技術・新商品等に間近に触れることで新たなアイデアや考え方を学び、企業の研究内容などを知ってもらうことで将来の就職に繋がることを期待し展示を行った。

○企画展示 鳥取県認定グリーン商品のリレー展示の開催

内 容	「鳥取県認定グリーン商品のリレー展示」
展 示 物	鳥取県認定グリーン商品の実物の展示、紹介パネルの展示など
主 催	鳥取県認定グリーン商品普及促進協議会
期 間	令和3年8月23日（月）～令和4年1月5日（水）
展 示 館	展示期間
米子東高校図書館	令和3年9月2日（木）～28日（火）
鳥取県立図書館	令和3年10月1日（金）～30日（土）
岩美高校図書館	令和3年10月13日（水）～29日（金）
鳥取県産業人材育成センター	令和3年11月29日（月）～12月24日（水）
倉吉総合産業高校図書館	令和3年12月7日（火）～令和4年1月18日（火）

※循環資源を活用した製品の展示物とともに、SDGsとリンクさせ関連図書等を図書館で展示した。

○企画展示（地独）鳥取県産業技術センター展示の開催

内 容	「ものづくりをアシスト～鳥取県産業技術センター展示」
展 示 物	開発商品の実物の展示、紹介パネルの展示など
展 示 館	鳥取県立図書館
期 間	令和4年2月11日（金）～27日（日）

イ 令和3年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

- ・相談会を共催する機関と密な意見・情報交換を行い、意思疎通を図った。
- ・講座等の開催に際しては、市町村立図書館と協力し、事前準備・役割分担等を行った。
- ・講座、セミナー、出前図書館等で参加者へ県立図書館や市町村立図書館のビジネス支援について周知した。
- ・相談会、セミナーはオンライン（会場視聴・個人視聴）も活用していただけるように設定した。コロナ禍であっても感染予防対策を徹底しながら必要な情報に触れていただく機会を担保した。

ウ 成果及び効果

- ・県立図書館の起業・創業融資相談会ビジネス情報相談会の参加者のうち2組が起業。スタートアップ創業勉強会の参加者4名が起業した。
- ・出前図書館で図書館活用の説明を行った結果、当館の各種相談会の利用につながった。
- ・金融機関からの紹介で、資料相談を目的に来館されるケースや、産業支援機関の職員が調査のための資料相談で来館されるケースが増えており、図書館のビジネス支援機能への理解が進みつつある。
- ・市町村立図書館と共催した農業講座では、共催館と企画や運営を協働し、多くの参加者を得た。参加者の満足度も高く、共催館にとっても新たな展開への自信と意欲を生んだ。この講座は、県内全市町村立図書館で共同利用を開始したオンラインデータベース「ルーラル電子図書館」の利用促進につながった。同様の農業講座は市町村立図書館（3館）での単独開催も進んでいる。
- ・農業講座ではINPIIT鳥取県知財総合支援窓口や日本政策金融公庫農林水産事業による活用説明も行き、関係機関との協力関係が強化できた。
- ・夢・実現スタートアップ創業勉強会では鳥取県よろず支援拠点と連携し、関係が強化できた。この講座も市町村立図書館（1館）で単独開催が進んだ。
- ・学校図書館等を11か所巡回する企画展示を通じ、県内企業の取組を知ってもらえる機会を作ることができた。

エ 課 題

- ・無料の相談会があることや、関連団体を紹介できること、商用データベースの利用等、図書館のビジネス支援機能を広く県民に知ってもらえるような発信を積極的・魅力的に行う必要がある。

- ・図書館のビジネス支援機能の周知や職員のスキルアップを図るため、講座やセミナー等をより一層市町村立図書館と連携して実施しながら運営方法、機材等の情報共有を行うことで、中西部地域でもビジネス支援サービスを拡大していく必要がある。
- ・「聞蔵Ⅱビジュアル」（朝日新聞）、「ヨミダス歴史館」（読売新聞）の新聞記事検索データベース、農業や食についての情報を扱う「ルーラル電子図書館」（農山漁村文化協会）を全州市町村立図書館で使用できるよう契約しているが、利用が少ないため今後も利用を促進していく必要がある。
- ・当館で行ったビジネスに関する展示等を県内図書館や学校図書館等で行うことなどにより、図書館のビジネス支援機能に係る認識を広め、活動を県内に浸透させていく必要がある。

単位：千円)

事業名	決算額	財源内訳			
		国庫支出金	起債	その他	一般財源
人の成長・学びを支える図書館推進事業	288				288
将来ビジョン	—				
令和新時代創生戦略	—				
政策項目	—				

(概要)

ア 目的及び事業の実施状況

(ア) 目的

乳幼児期からの子どもの読書推進を図るため、子どもたちに日常的に接する職員（幼稚園教諭、保育士、公共図書館職員等）の資質向上や、市町村立図書館児童図書部門の支援を行う。

経済的に困窮する家庭やひとり親家庭などの「サポートの必要な家庭」を、図書館の「資料」や「場」の活用を通じて支援する。市町村立図書館と連携してサポートの必要な人へ図書館サービスを届けると共に、本を読むだけではない「居場所」としての図書館の可能性を追求する。

(イ) 事業の実施状況

<子ども読書活動推進>

○「子どもと本をつなぐ講座」の開催

- ・公共図書館職員、学校図書館関係職員等の子どもと子どもの本に関わる人々が、発達段階に応じた子どもの本の魅力や選び方について学ぶことで、子どもの読書活動に関する理解や関心を深め、取組のさらなる充実と促進をはかる。

期日等	令和3年11月25日（木）	会場：県立図書館、キナルなんぶ
参加者	125名	
内容	「子どもと本をつなぐブックトーク」と題したブックトークの意義、実施する際のポイント等についての講義、実演 講師：張替恵子氏（東京子ども図書館 理事長）	

名称	内容・期日等	参加者等
めざせ！図書館マスター	令和3年4月13日（火）～5月12日（水） 図書館に関するクイズやチャレンジ（初級、中級、上級）を実施。	のべ74人
ぼちぼちいかいな 夏の図書館2020	展示「子どもと一緒に調べてみよう」	940冊
	展示「やってみようおうちのこと」	102冊
	展示「夏だ！夏だ！！」	801冊
「えほんのじかん」	毎週火曜日開催	204名（大人100名、子ども104名）
「おはなし会」	第4を除く日曜日	子ども33名
「大人も楽しむおはなし会」	毎週土曜日	40名（大人19名、子ども21名）
新刊児童図書の選定用貸出	市町村立図書館等へ貸し出し	3,887冊
<p>「ドリームティーンズコーナー」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10代青少年の問題意識や興味に沿った資料収集やコーナー展示を実施、ホームページや通信の発行等による情報発信を行った。 展示テーマ：「新学期のキレイを準備しよう」（貸出冊数181冊） 「はじめての1巻」（貸出冊数221冊） 「あーと×アート×ART」（貸出冊数107冊） 「新しい生活様式を求めて」 ・「児童×ドリームティーンズ」（児童書から10代向けの読み物への橋渡しとなるよう、登場人物が概ね中学生以上の児童書を配架したコーナー） 		

(貸出冊数 2,736 冊)

時宜に応じた児童図書室の資料展示を実施。

展示テーマ：「オリンピックパラリンピック」(貸出冊数 102 冊)

「おいしい秋がやってきた」(貸出冊数 405 冊)

「みんなだいすきクリスマス」(貸出冊数 685 冊) ほか

※各おはなし会は、定員制、事前申込制とし、感染症対策を徹底した上で実施。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した期間あり。

<「サポートの必要な家庭」応援事業>

○「図書館=居場所！キャンペーン」

新型コロナウイルス感染症の拡大により実施を見送った。

○関係イベントへの出前図書館の実施

期日	内容	主催者
7月17日(土)	令和3年度とっとり県民カレッジ講座 「つながる最前線！～地域と若者がまちを変える～」	鳥取県立生涯学習センター —

○関係機関と共催した展示

期日	内容	共催機関
11月12日(金) ～12月8日(水)	ストップ！DV なくそう！児童虐待	鳥取県福祉相談センター

○取組を広げるためのイベント等での事業紹介

期日	内容	主催者
8月11日(金)	令和2年度生活困窮者自立支援推進会議(東部)	社会福祉法人鳥取県社会福祉協議会
10月4日(月)	令和2年度生活困窮者自立支援推進会議(中部)	社会福祉法人鳥取県社会福祉協議会
10月6日(水)	令和2年度生活困窮者自立支援推進会議(西部)	社会福祉法人鳥取県社会福祉協議会

イ 令和3年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

- ・「子どもと本をつなぐ講座」をハイブリッド開催したことで、感染対策面だけでなく、遠隔地の方にとっての利便性が向上し、例年より多くの方に参加していただくことができました。
- ・非来館サービスや子どもの情報入手の入口となること等を目的として、子ども向けホームページ「子どものページ」を新設した。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大が継続し、事業の実施が困難な状況が続いたが、会議等への参加を通じた当館の取組み紹介、関係機関と共催した展示の実施等、可能な範囲で行った。

ウ 成果及び効果

- ・おはなし会や図書の企画展示、おすすめ本の紹介など、日々の活動により、親子で本を楽しむことや子育てに読み聞かせを取り入れることの良さが認知されることにつながっている。
- ・ブックトークをテーマとした「子どもと本をつなぐ講座」は、参加者の満足度も高く、今後の子どもの読書活動推進につながるものとなった。
- ・関係機関との会議等への参加により、相互に活動内容の把握や情報共有が進みつつある。

エ 課題

- ・平成30年度から5カ年計画で実施することとしている「子どもと本をつなぐ講座」をはじめとして、今後も市町村立図書館職員、学校図書館関係職員、保育士・幼稚園教諭等、子どもと子どもの本に関わる人々にスキルアップの機会を提供し、県内の子どもの読書活動推進に向けて引き続き取り組むことが必要である。
- ・図書館を居場所とする活動を途切れることなく実施することができた。
- ・新型コロナウイルスの影響により、居場所としての活用推進は厳しい状況であったが、コ

ロナ禍において、経済的に困窮する家庭への支援が必要であることを再認識した。今後は「身近で安全な居場所」と「情報提供機能」の両面を生かした取組を進めていきたい。

(単位：千円)

事業名	決算額	財源内訳			
		国庫支出金	起債	その他	一般財源
郷土情報発信事業	3,296			50	3,346
将来ビジョン	—				
令和新時代創生戦略	—				
政策項目	—				

(概要)

ア 目的及び事業の実施状況

(ア) 目的

郷土資料（地域資料）の収集・保存を進め、後世へ伝えるとともに、郷土資料の普及・啓発、郷土関係文学者情報の発信等を行い、利用促進を図る。

(イ) 事業の実施状況

鳥取県の歴史・文化、文学・文字活字、郷土出身人物等に対する県民の関心を高めるため、関係機関、団体とも連携しながら、資料展、講演会等を有機的に組み合わせて開催した。

○ふるさとの歴史再発見事業

名称	期日	会場	参加人数	講師・備考
特別資料展「初！始！発！ —鳥取県のはじまり展—」	R3. 8. 1(日) ～9. 12(日)	県立図書館 2階 特別資料展示室	404名	とっとり県民の日 関連事業
【延期】郷土文化講演会 「地域史研究と地域の活性化」	R4. 2. 23(水) (延期・時期未 定)	県立博物館 2階 講堂	—	講師：坂本敬司（元 鳥取県立博物館学 芸員、元鳥取県史編 さん室長）
鳥取県に伝わる昔話を聞く会	8回開催 (第4土曜日)	県立図書館 2階 小研修室	67名	語り手： 中嶋須美子氏

○「文字・活字文化の日」関連事業

・「ブックインとっとり記念講演会」の開催(ブックインとっとり実行委員会と共催)

期日・参加者等	令和3年11月6日(土) 場所：鳥取県立図書館及びオンライン視聴 参加者：50名
内容	ブックイン鳥取2021 第34回地方出版文化功労賞受賞記念講演会 ・講演1「戦争の遺産を地域で、記憶から記録へ」 功労賞受賞者：高谷和夫氏 (くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク代表) ・講演2「モダニズム建築の誕生」 奨励賞受賞者：中村亨一氏 (建築家・芸術工学博士・一字一級建築士事務所代表) ・講演3「琉球・沖縄文学の花綵—『ことば咲い渡り』を編んで」 特別賞受賞者：波照間永吉氏 (名桜大学大学院国際地域文化専攻(博士後期課程)教授・研究科長)

・特別資料展の開催

名称	期日	会場	来場者数
「鳥取県立図書館 新収蔵資料展」	R3. 12. 10(金) ～12. 27(月)	県立図書館2階 特別資料展示室	158名

○その他の企画展示等

名称	期日	会場	備考
Hello! New life「とっとりのまちでくらす」	R2. 4. 9(金) ～5. 12(水)	県立図書館 2 階 通路ギャラリー	
「鳥取大火」がもたらしたもの	R2. 4. 9(金) ～5. 30(日)	県立図書館 2 階 ふるさと鳥取コーナー	
ワールドマスターズゲームズ関西 2021 まであと一年!	R3. 5. 14(金) ～6. 29(火)	県立図書館 2 階 通路ギャラリー	県ワールドマスターズゲームズ推進課と連携
山開きと山の文学	R3. 6. 11(金) ～7. 8(水)	県立図書館 2 階 ふるさと鳥取コーナー	
夏到来! 県人の野球漫画	R3. 6. 11(金) ～7. 30(金)	県立図書館 2 階 まんが王国鳥取コーナー	
小さな写真展 ～鳥取の海と山を楽しもう～	R3. 8. 2(月) ～8. 30(月)	県立図書館 2 階 通路ギャラリー	鳥取の自然を楽しみ隊との共催
藩政資料を活用した事例集	R3. 7. 9(金) ～10. 30(土)	県立図書館 2 階 ふるさと鳥取コーナー	郷土文化講演会関連
プレミアムなおいしさがいっぱい! もっと鳥取県を楽しもう!	R3. 10. 15(金) ～11. 10(水)	県立図書館 1 階 閲覧室入口	
今年のプロスポーツはとっとりゆかりの選手が大活躍	R3. 11. 12(金) ～12. 27(月)	県立図書館 2 階 ふるさと鳥取コーナー	
「令和 3 年度鳥取県文化功労賞」受賞者紹介展	R4. 1. 4(火) ～2. 27(日)	県立図書館 2 階 ふるさと鳥取コーナー	県文化政策課と連携
(CD 展示) ・没後 230 年記念 音楽の天才モーツァルト ・♪音楽セレクション♪ショパン & モーツァルト & リスト ほか	R3. 4. 9(金) ～5. 12(水) R4. 1. 14(金) ～2. 27(日)	県立図書館 1 階 閲覧室入口	CD 利用促進のため、月ごとにテーマ変更(年間 11 テーマ)

イ 令和 3 年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

- ・夏季特別資料展「初! 始! 発!」では、鳥取県の様々な出来事等について、初めてや始まり、鳥取発などに焦点を当てた展示を開催し、児童生徒の自由研究にも使える内容とした。
- ・新収蔵資料展では、近年、寄贈や購入により収集した図書や特殊資料を披露し、当館の郷土文化の蓄積と発信に関する役割や機能を周知する機会とした。
- ・企画展示等では、県庁各課や関係団体と連携し、鳥取県の魅力や出身者の活躍を発信した。
- ・昨年度当館が関係団体と共催した「歌人杉原一司関係資料展」を、地元八東図書館での開催するにあたり、パネルや資料の貸出等を行った。
- ・既刊の「郷土出身文学者シリーズ」の広報のため、販売箇所を増やし、情報発信に努めた。

ウ 成果及び効果

- ・鳥取県の歴史・文化・スポーツ・人物等の情報を発信する資料展、企画展示等を多数開催することにより、鳥取県の魅力や県出身者の活躍を発信することができた。
- ・新収蔵資料展を開催したところ好評であり、今後も新規収蔵資料のお披露目展の要望があった。
- ・上記の資料展開催を契機に、関係資料の寄贈を多くの関連機関・団体、個人に依頼したところ、未所蔵資料を多く寄贈していただいた。今後の活用につなげたい。
- ・とりぎん文化会館のイベントと連携し、関連 CD と図書を展示したことにより、貸出増加につながった。
- ・県民主催の鳥取県の魅力を発信する写真展を行ったことにより、新たな利用者が増えた。
- ・当館の県民・関係団体と協同した資料展の開催を契機とし、地元八東図書館での資料展開催や町立図書館の資料収集、町民への情報発信につながった。

エ 課 題

- ・郷土資料の収集・整理、郷土情報の蓄積・情報発信により一層努める必要がある。また、これまで当館で行った展示等を県内図書館や学校図書館で行うなど、広く県民に郷土情報を知ってもらえるような発信を積極的・魅力的に行う必要がある。
- ・郷土資料の保存環境の点検を行い、災害等で滅失・破損等しないよう対策を強化するとともに、貴重な郷土資料のデジタル化を推進し、利活用の普及啓発に努める必要がある。

(単位：千円)

事業名	決算額	財源内訳			
		国庫支出金	起債	その他	一般財源
図書館国際交流事業	5,755				5,755
将来ビジョン	—				
令和新時代創生戦略	—				
政策項目	—				

(概要)

ア 目的及び事業の実施状況

(ア) 目的

環日本海諸国（韓国・中国・ロシア）の原書やその地域について記述された日本語図書の収集・提供を行うとともに、様々な事業を通じて、鳥取県（県民）と環日本海諸国との交流を促進する。また、英語教育や国際理解教育の推進等、世界で活躍する人材育成につながる情報収集・提供に努める。

(イ) 事業の実施状況

○環日本海諸国の図書館図書交換事業

- ・新たにモンゴル中央県D. ナツァグドルジ記念公共図書館と「図書交換に関する協定」を締結（令和3年12月21日）
- ・協定を結んでいる環日本海諸国の図書館との図書交換を進めた。

中国河北省		韓国江原道		ロシア沿海地方		モンゴル	
河北省図書館		春川市立図書館		・ゴリキー図書館 ・沿海州児童図書館		中央県D. ナツァグドルジ記念公共図書館	
送付	受領	送付	受領	送付	受領	送付	受領
51冊 (未送)	未着	88冊 (未送)	109冊	46冊 (未送)	30冊	20冊 (未送)	20冊

※未着の河北省図書館については、交換図書が全て政府の固定資産に納入されており、海外に出すには許可申請の手続きが多く、時間がかかっている。毎月申請しているが、審査待ちとのこと。

※ロシア沿海地方（ゴリキー図書館、児童図書館）と、モンゴル中央県D. ナツァグドルジ記念公共図書館は、新型コロナウイルス感染症の影響により、物流が止まっているため、未送。物流再開後、送付予定。

○関係諸国の資料整備

- ・環日本海交流室・国際交流ライブラリーの閲覧用資料を購入（図書461冊、雑誌32種、新聞4種）

○国際交流ライブラリー講演会の開催

講演会等名称	期日	会場	人数	講師
ロシアの食・世界の食	R3. 11. 20(土)	県立図書館 ほか	61名	沼野恭子氏（東京外国語大学教授）
物語が故郷：オーストラリアで暮らし、絵本を作って	R3. 12. 4(土)	米子市立図書館ほか	119名	渡辺鉄太氏（子どもの本作家）
渋沢栄一『論語と算盤』の思想	R4. 1. 30(日)	オンライン 視聴のみ	103名	守屋淳氏（作家／中国古典研究家）

※開催形式：主会場及びサテライト会場への参集、及び自宅等へオンライン配信

○「外国語で楽しむえほんのじかん」の開催

- ・外国語絵本の読み聞かせと外国の文化紹介を行った。
- ・読み手は、ボランティアと県立図書館職員。

期日	対象言語	参加人数
R3. 5. 1 (土)	中国語	14名
R3. 12. 19 (日)	ロシア語	20名

※そのほか、ベトナム語についても予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止

○多文化を知るイベント「世界は広いぞ！知ろう！世界のあれこれ」の開催

- ・県内在住の9か国語を話せるカナダ出身の先生より、英語絵本の読み聞かせ、多言語のあいさつや世界の様々な「ことば」や「文字」にまつわるお話や、母国の文化等を紹介

期日	参加人数
R3. 7. 24 (土)	30名

○国際交流ライブラリー企画展示

- ・国際交流や講演会に関する企画展示

「環日本海交流室が所蔵している中国語・韓国語・ロシア語のマンガを紹介します」
「Festival Around the World! 世界の祭り！」
「令和3年度国際交流ライブラリー講演会関連図書展示『本でひらこう世界への扉』」
「モンゴル中央県D. ナツァグドルジ記念公共図書館と図書交換に関する協定を締結しました」

- ・鳥取県が交流している国に関する企画展示（県交流推進課と連携）

「鳥取県が交流しているロシア沿海地方を紹介します」
「鳥取県が交流している中国河北省を紹介します」

- ・ピーナッツに関する展示

ピーナッツから見るアメリカ文化「野球」
ピーナッツから見るアメリカ文化「スヌーピー」と「アポロ計画」の関係とは！？スヌーピー、月に行く！
ピーナッツから見るアメリカ文化「クリスマス」、「おおみそか&新年」

イ 令和3年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

- ・鳥取県が交流を深めている環日本海諸国との図書交換について、新たにモンゴル中央県D. ナツァグドルジ記念公共図書館とも協定を締結し、図書交換を開始した。
- ・国際交流ライブラリー講演会では、県中・西部の図書館と共催し、各地域の課題に沿ったテーマ等について企画段階から相談・調整を行った。また、各市町村立図書館へサテライト会場としての参加を募り、参加希望図書館へのYouTube配信を行った。コロナ禍においても多くの方に参加してもらえるよう、会場参加のほか、自宅等でのオンライン視聴も可能にした。
- ・企画展示では、国際交流に関する県政やその時々話題等をテーマに、関連図書を紹介した。今年度は、鳥取県と交流のある各国の記念の年にあたり、交流推進課と一緒に企画展示を2回行った（中国河北省との友好交流35周年、ロシア沿海地方との交流30周年）。
- ・タイムフェスティバル（国際交流団体や在住外国出身者等がそれぞれの活動、国を紹介する催し）に出展し、国際交流ライブラリーの紹介・本の貸出を行った。
- ・例年、外国語図書の選書のため東京の書店へ出張しているが、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、各書店と連絡を取り、ホームページ、図書リスト、雑誌等を参考にして選書を行った。

ウ 成果及び効果

- ・モンゴル中央県D. ナツァグドルジ記念公共図書館からの寄贈図書及び当館所蔵のモンゴルに関する図書の展示により、協定締結を周知するとともに、モンゴルについて興味、関心を持ってもらう機会を提供できた。県内在住のモンゴル出身者から喜びの反響があり、今後もモンゴル語や関係資料を収集、提供し、図書館の利用促進に繋げたい。
- ・講演会（3回）は、参加者の満足度の高い内容となった。開催後は関連図書の貸出も多く、図書館利用の促進につながった。また、今年度初めて、サテライト会場とオンライン視聴を加えたことにより、近くの会場での参加や自宅等でのゆっくりとした視聴が選択でき、大変好評だった。
- ・「外国語で楽しむえほんのじかん」、「多文化を知るイベント」等の行事、図書展示、出前図書館等を行うことにより、県民が国際理解や環日本海諸国等への関心を深める機会を提供することができた。

エ 課題

- ・国際理解のための講演会や行事等を引き続き開催し、国際交流ライブラリーの利用を促進する。また、本や図書館資料を活用した多文化共生をテーマとした交流イベントを継続開催し、県内在住外国人と地域住民の交流の場となるようにする必要がある。
- ・市町村立図書館と協力し、県内での環日本海交流室及び国際交流ライブラリーの利用促進並びに学校等へのレファレンスや資料提供等の支援を充実する必要がある。
- ・鳥取県が交流している環日本海の国々について、引き続き図書館としての交流や、国際理解のための活動を行う。また、モンゴル中央県D. ナツァグドルジ記念公共図書館と図書交換に関する協定を締結したことにより、今後の両県・両国の交流をさらに深めていけるよう、図書交換等を行っていく。

(単位：千円)

事業名	決算額	財源内訳			
		国庫支出金	起債	その他	一般財源
市町村立図書館等協力支援事業	8,085				8,085
将来ビジョン	—				
令和新時代創生戦略	—				
政策項目	—				

(概要)

ア 目的及び事業の実施状況

(ア) 目的

市町村立図書館等の機能向上を図るため、資料・情報を提供すると共に、各館の職員のスキルアップを目的とした研修会・講座を開催する。各館と連携し、住民に対し図書館利用を啓発する事業を実施する。県全体の図書館サービスの高度化を図り、ネットワークの要としての役割を果たす。

(イ) 事業の実施状況

市町村立図書館等に対し、宅配便によるリクエスト本の配送、一括大量貸出、訪問相談、資料相談を行った。司書の技術向上を図るため、以下の研修事業を実施した。また、新規事業として図書館を活用した地域情報の発信について学ぶ研修会を開催した。

<令和3年度の市町村立図書館等への貸出冊数>

支援先	令和元年度	令和2年度	令和3年度
市町村	58,524冊	54,282冊	46,242冊
高等学校	23,279冊	29,031冊	25,141冊
特別支援学校	15,192冊	17,200冊	13,511冊
病院図書室	4,313冊	4,582冊	1,178冊
大学・団体・その他	4,335冊	3,389冊	3,564冊
合計	105,643冊	108,484冊	89,636冊

※病院図書室は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、閉室など通常の図書館サービスが行えず、貸出冊数は減少している。

※令和3年度の貸出冊数は令和3年4月～令和4年1月のもの。

○図書館業務専門講座（年4回）

・高度化・多様化する利用者のニーズに対応するために、図書館職員のスキルアップを目的とした研修を実施した。

内容・講師	期日	参加者	会場
「地域とつながる図書館へ ～地域をよく知り、課題に向き合う図書館～」 ・講師：伊東 直登 氏（松本大学図書館長）	R3.7.15	39名	リモート 開催
【テーマ1】図書館の行政支援 「図書館の行政支援 ～議会・行政支援の第一歩」 ・講師：天野 奈緒也 氏 （愛媛県立図書館 相談グループ 専門員）	R3.9.17	43名	リモート 開催
【テーマ2】とっとりデジタルコレクションの活用法 「とっとりデジタルコレクションについて（概要）」 ・講師：野沢 敦（鳥取県立図書館 資料課 課長） 「とっとりデジタルコレクションの活用法と調べ方のコツ」 ・講師：藤原 拓也（鳥取県立図書館 郷土資料課 司書）			

中国・四国地区 図書館地区別研修	R3.12.14 ～17	70名	鳥取県立 図書館及 びリモ ート開催
“知ることがだいじ”を子どもたちへ ・講師：千葉 美香 氏（偕成社編集部）	R4.1.28	46名	リモート 開催

○図書館業務専門講座＋α

内容・講師	期 日	参加者	会 場
【テーマ1】 「鳥取県のGIGAスクール構想の実現に向けて ～ 学校図書館と市町村立図書館の役割を考える」 ・講師：横山 順一氏 （鳥取県教育センター GIGAスクール推進課長） 【テーマ2】 「学校図書館を活用した年間計画作成について」 ・説明：橋中 真紀子 （鳥取県立図書館 学校図書館支援センター 学校図書館支援員）	R3.2.18	82名	リモート 開催

○新任職員のための図書館職員実務研修会

内容	期日	参加者	会 場
講義 1 「住民に役立ち、地域に貢献する図書館を実現するために」 ・講師：藤井美華子（支援協力課長） 事業説明 「県立図書館の市町村立図書館支援・学校図書館支援について」 ・説明者：三田祐子（支援協力課市町村担当係長） 間 久美子 （支援協力課学校図書館担当 学校図書館支援員） 講義 2 「著作権の基礎知識」 ・講師：岩崎武史（資料課係長） 講義 3 「資料相談（レファレンス）の基礎知識とデータベース活用法」 ・講師：福市 信（情報相談課相談担当係長） 講義 4 「本の正しい扱い方と郷土資料の活用法」 ・講師：藤原拓也（郷土資料課司書）	R3.4.15	45名	鳥取県立 図書館及 びリモ ート開催

○「鳥取県ジュニア司書養成講座」の開催

実施館	期 日	修了者
鳥取県立図書館	R3.7.18、7.25、11.14	4名
大山町立図書館	R3.7.31～8.1	1名
米子市立図書館	R3.8.5～8.6に開催を予定していた が、コロナ感染拡大防止のため中止	—

○県立図書館職員が講師を務めた研修

・市町村立図書館職員のスキルアップのため、希望する図書館の研修会に出向き研修を行った。

内容・講師	(開催市町村)	期 日	参加者
図書館研修会「図書館を知る、使う、楽しむ研修会」(住民参加による図書館活動、ビジネス支援) 三田 祐子(支援協力課市町村担当 係長)	南部町	R3.11.7	32名
大山町立図書館専門業務研修会(データベース) 松尾 佳美(情報相談課相談担当 司書)	大山町	R3.11.30	7名
かがやく子どもフェスティバル(外国語で楽しむ絵本の読み聞かせイベント) 涌島 香(郷土資料課 環日本海交流室 司書) 三田 祐子(支援協力課市町村担当 係長) ※入退出自由のイベントのため参加者の正確な人数は不明	三朝町	R3.12.12	約20名
北栄町内小・中・高等学校図書館職員交流研修会(商用データベース) 三田 祐子(支援協力課市町村担当 係長)	北栄町	R3.12.23	10名

※学校図書館支援員の派遣は、「生きる力を育むとっとり学校図書館活用教育普及事業」に実績を報告している。

○県立図書館の職員が市町村の図書館運営に関する委員などを務めた事例

委員の名称・委員名	市町村名	任 期	備 考
岩美町立図書館協議会委員 三田 祐子(支援協力課市町村担当係長)	岩美町	R.3.4.1~R4.3.31	
江府町図書館協議会委員 三田 祐子(支援協力課市町村担当係長)	江府町	R.3.4.1~R5.3.31	
わかさ生涯学習館運営委員会委員 三田 祐子(支援協力課市町村担当係長)	若桜町	R.3.4.1~R5.3.31	
日吉津村子どもの読書活動推進計画策定委員会 オブザーバー 三田 祐子(支援協力課市町村担当係長)	日吉津村	R3.4.1~R4.3.31	

イ 令和3年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

- ・令和3年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、講座の多くはリモート開催とした。
- ・市町村立図書館を対象とした研修会への講師派遣を行い、それぞれの担当部署の職員が講師を務め、当館職員のスキルアップにもつながった。

ウ 成果及び効果

- ・講座のリモート開催により1館から複数の参加が可能になった。また、移動時間が不要となるため、受講者への負担も軽減されている。
- ・研修は読書バリアフリー、GIGAスクール構想等の最新のテーマを取り上げ、公共図書館に係る喫緊の課題意識や情報の共有を図ることができている。

エ 課 題

- ・支援の充実のためには、各館を訪問し(訪問相談)、現場のニーズを把握することが必要である。
- ・図書館が知の情報拠点としてこれまで以上に活用されるように、図書館のサービスや機能を広く県民に知ってもらうための市町村立図書館と協力した一層の取組が必要である。

(単位：千円)

事業名	決算額	財源内訳			
		国庫支出金	起債	その他	一般財源
図書館運営費(資料購入整理費)	193,989	640		4,341	189,008
将来ビジョン	—				
令和新時代創生戦略	—				
政策項目	—				

(概要)

ア 目的及び事業の実施状況

(ア) 目的

多様化・高度化する県民の要望に的確に対応するため、あらゆる分野の最新資料、専門的な資料、郷土資料、市町村や学校を支援する資料等、蔵書の充実を図る。

(イ) 事業の実施状況

○図書及び逐次刊行物の整備充実

・県民の専門的な要求にも応えられるよう資料の充実を図り、逐次刊行物については広範な分野で最新の情報が提供できるよう充実に努めた。

○不要資料の除籍による書庫スペースの確保

・複本や旧版のある資料、内容が古く利用のない資料、状態の悪くなった資料等の除籍を行った。

<資料の整備状況>

区分		R3年3月末 冊数	購入等 (寄贈含む)	除籍	計	R4年1月末 冊数
蔵書合計		1,210,987	25,179	△ 3,787	21,392	1,232,379
内 訳	一般	833,595	18,960	△ 3,459	15,501	849,096
	郷土	149,415	1,963	0	1,963	151,378
	児童	123,752	2,739	△ 317	2,422	126,174
	協力	81,658	1,331	△ 9	1,322	82,980
	その他	22,567	186	△ 2	184	22,751

イ 令和3年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

- ・県政・地域の課題に対応するため、課題解決型サービス実施のための資料の充実を図った。
- ・人の成長・学びを支えるための子どもの読書推進、学校図書館支援、生涯学習を支援するための資料の充実を図った。
- ・読書バリアフリー関連の資料の充実を図った。
- ・不要資料の除籍を行い、書庫の空き容量の確保に努めた。

ウ 成果及び効果

- ・市町村立図書館では持つことの困難な専門書・技術書など多様な内容の資料を収集することにより、県民が必要とする資料の提供を行った。
- ・探究学習や総合的な学習などに活用できる資料の貸出により、学校図書館支援を行った。
- ・デジタイズした資料を多数作成し、印刷資料を読むことが困難な人への録音資料が大幅に充実した。
- ・除籍や書庫の整理により、書庫の空き容量の確保を行った。

エ 課題

- ・多様化・高度化する県民の要求に応えるために、専門家の助言を参考にしながら、最新の資料を幅広く収集する必要がある。
- ・郷土資料については、出版情報を逐次確認しながら、網羅的な収集に努める必要がある。
- ・電子書籍の導入について検討を行う必要がある。
- ・蔵書数の増加により、書庫の空き容量が減少してきているので、今後の資料増加に対応するため、不要資料の除籍を継続的に進め、空き容量を確保していく必要がある。

